

【指導書の構成】

研究資料編

年間指導計画例とそれに対応した題材ごとの評価規準例、学習指導案例などを複数掲載しています。授業を多角的にサポートする資料を掲載しています。ソルフェージュの補充教材を掲載しています。音楽史や楽典などに関するEXERCISEを掲載しています。

◆指導のポイントと楽曲解説をまとめた紙面

指導のポイント

- 「Ich liebe dich」は選訳すると「私はあなたを愛す」だが、詩は「私たち2人を守り支えてください」と神に祈る内容である。厳かに温かい気持ちで歌う。
- 3～4小節は1～2小節より1音上っており、情緒の穏やかな高まりを感じながら歌う。
- 29～31小節では、音高や和音の変化を感じるとともに、30～31小節の音高が拡大されていることに注目し、新しい気持ちの高まりを表現して歌う。
- 原曲で歌う場合は、朗読やリズム感の練習をし、滑らかに発音できるようにしてから歌う。
- 原曲歌詞についているカタカナはガイド的なもので、資料のCD（指導用CD）トラック①の朗読や歌唱を参考にする。

楽曲について

1795年頃に作曲され、1803年に出版された。ベートーヴェンの歌曲の中でもよく親しまれており、その旋律はシンプルで素朴ながらも優しい親しみあふれている。ヘーゼの訳詩は3節あったが、ベートーヴェンは第2節から作曲している。原題は「Zärtliche Liebe（優しい愛）」。

作曲者 フリードリヒ・ウィルヘルム・ヘーゼ Karl Friedrich Wilhelm Herse 1754～1821：詳細不明。

編曲者 1905～1999：東京生まれ、1930年、早稲田大学文学部卒。児童文学評論家。

原曲 トヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン Ludwig van Beethoven 1770～1827：ドイツのボンで生まれ、オーストリアのウィーンで活躍した。ボンではベートーヴェン(1748～1798)から音楽の基礎を学び、ウィーンではハイデンやサリエリ(1756～1825)のもとで学んだ。レッスン、演奏会、後援者による援助、弟宛などから得た収入で自立した活動をした初めての作曲家である。26歳頃にはすでに耳疾が始まっており、1802年、弟宛にて「ハイリゲンシュタットの遺書」を書くが、そこからは病を乗り越えて作曲を続けるという、彼の芸術家としての使命感を読み取ることが出来る。

19年には難聴になっていたと思われる、彼が書いた会話帳は400冊にも及ぶ。彼の創作活動は、3つの時期に分けることができる。初期は02年頃までで、この時期の作品では、4楽章構成やコーダの拡大、楽章構成にスケルツォを配置するなど、ハイデンやW.A.モーツァルトの影響を受けつつも、形式面での拡大が認められている。中期は14年頃までで、この時期、ベートーヴェンの作品は劇的なものへと変化した。この頃の交響曲では、主題変奏によって各楽章が展開されている。後期はおおよそ15年以降であり、その様式には、ロマン派の精神と共通する傾向がみられ、作品の中に対位法をしばしば取り入れるなどの特徴がある。それらを通じて、彼の音楽は単に古典派の枠を拡大しただけでなく、作品に崇高な精神性をもたらしたといえる。

※紙面はサンプルです。文章やデザインは変更になる場合があります。

楽譜資料編

歌唱教材の伴奏譜の他、移調譜や別の編曲なども随時取り上げ、指導の便宜を図っています。

指導用CD

歌唱と器楽教材の模範演奏、カラピアノ、合唱曲のパート別演奏(一部)などを収録しています。また、イタリア歌曲とドイツ歌曲は原語歌詞の朗読も収録しています。

鑑賞用CD

厳選した鑑賞教材(一部)を収録しています。

検討の観点別に見た特色

	観点	教科書の特色
範囲	●取り扱う内容の範囲は、学習指導要領の目標及び内容によっているか。	●多様なジャンルから精選された教材によって必要な内容が十分に扱われており、音楽科の目標を達成するという観点から極めて適切なものとなっている。
	●教材は生徒の心身の発達段階や生徒の能力の実態に適切しているか。	●歌唱教材においては、生徒の心情的な発達段階に応じた楽曲が取り上げられている。器楽教材においては、各学校の実態や生徒の習熟度に応じた楽曲が取り上げられている。また、鑑賞教材についても同様の扱いがなされている。
程度	●「音楽を形づくっている要素」が学習を進めるうえで適切に扱われているか。	●表現及び鑑賞に共通する指導内容として「音楽を形づくっている要素」に関する学習が示されており、その考え方の具体的なヒントとなる「音楽を鑑賞する際に」が掲載されている。
	●教材の選択及び扱いは、学習指導を進めるうえで適切であるか。 ●基礎的・基本的な内容を学習するうえで適切であるか。	●幅広く変化に富んだ学習活動を行うことのできる教材が用意されており、生徒が興味・関心をもって意欲的に学習を進めることができるよう配慮されている。 ●教材の内容に関連して、基礎的・基本的な内容を学習できる参考資料が掲載されている。また、ページ間にリンクが張られており、確実に学習活動を進められるよう配慮されている。 ●楽曲中の音楽用語の意味やリコーダーの派生音の運指が同一ページに表示されており、学習効率が上がるよう工夫されている。
内容	●説明文やイラスト、写真などは、学習を進めるうえで適切であるか。	●説明文は平易な文章で書かれており、その配置も工夫されている。 ●イラスト、写真の取り上げ方もアイディアにあふれ、音楽的感性を育成しながら知的理解を深められるよう配慮されている。
	●生徒が興味・関心をもって、主体的・創造的な学習活動に取り組めるよう工夫されているか。 ●我が国の音楽や音楽文化に対する配慮がなされているか。	●生徒が自ら主体的に学習活動を進められるように、各教材に学習内容や活動のポイントが明確に示されている。 ●創作の活動においては、生徒の能力に応じて創造的に進められるよう配慮されている。 ●鑑賞の活動においては、日本独自の文化の中で育まれてきた音楽の特徴を感じ取ることができるよう配慮されている。器楽の活動においては、各学校の実態に応じて取り組めるよう5種類の和楽器が取り上げられている。また、音楽的側面からだけでなく、文化的側面からも捉えられるよう配慮されている。
構成	●小学校、中学校における学習内容との系統性、一貫性について配慮されているか。 ●各学校や生徒の実態に応じた学習指導計画を立てられるよう配慮がなされているか。	●小学校、中学校の義務教育における音楽科の目標の上に立った内容の教科書となっている。 ●歌い継いでいきたい日本の歌を「心の歌」と題して小学校、中学校から一貫して取り上げており、日本の歌に対する配慮がなされている。 ●各教材に示された学習内容や活動のポイント、歌唱・器楽の「ジャンル別MAP」などにより、各学校や生徒の実態に応じた学習指導計画を立てられるよう配慮されている。 ●表現教材と鑑賞教材の関連が図られており、分野を通じた題材設定がしやすいよう配慮されている。
	●教材の配列は適切であるか。	●学習指導要領の内容に即した教材が配列されている。 ●表現教材と鑑賞教材の関連が図られており、さらにページ間に張られたリンクによって、理解を深めたり関連付けたりできるよう随所に工夫がなされている。
人権	●教材の分量は適切であるか。	●豊富な分量が扱われており、各学校や生徒の実態に応じて柔軟な対応ができるよう配慮されている。
	●人権教育、国際理解、情報、環境などに配慮されているか。	●全体を通して、人権教育に対する適切な配慮がなされている。また、諸外国の文化に対する理解を深めることができるという点についても配慮がなされている。 ●音楽に関する知的財産権について「ルールを守って音楽を楽しもう」が掲載されており、生徒にとって分かりやすく説明されている。
体裁	●全体の体裁は教科書として適切であるか。	●A4変型判で楽譜が見やすく、紙面のレイアウトも統一感があり、教科書として適切なものとなっている。 ●表紙や扉からも音楽に対するメッセージが感じられる体裁となっている。
	●印刷、製本などは適切であるか。	●全ページにわたって美しいカラー刷りとなっており、楽譜、文字、イラスト、写真などが鮮明に印刷されている。 ●製本は長期の使用に十分耐える堅牢なものとなっている。 ●再生紙を使用し、リサイクル可能な表紙加工を施すなど、環境に十分な配慮がなされている。
	●ユニバーサルデザインへの配慮がなされているか。	●全体に区別しやすい配色を用いながら必要に応じて形状や濃度を違えるなど、確実に識別できるよう配慮されている。